

令和 5 年度第 2 回南九州市総合教育会議 議事録

1 日時

令和 6 年 2 月 19 日 午前 9 時～午前 11 時

2 場所

知覧庁舎東別館 3 階 大会議室

3 出席者

(1) 南九州市総合教育会議構成員

市長（議長）	塗木 弘幸
教育長	有馬 勉
教育委員	海江田 宗順
教育委員	池畠 薫
教育委員	大迫 雅彦
教育委員	末原 貴子

(2) 南九州市教育委員会事務局

教育総務課長	有水 志郎
学校教育課長	竹下 公博
社会教育課長	川之上 勇一
保健体育課長	轟木 慎一
学校給食センター所長	井上 みどり
教育総務課総務係長	東垂水 克典
学校教育課学務係長	星原 貴光
保健体育課国体推進係長	野中 浩洋

(3) 南九州市立図書館

図書館長	加治佐 敏昭
図書館職員	川平 幸代

(4) 南九州市総合教育会議事務局

総務課長	東 成功
総務課行政係長	有蘭 琢也
総務課行政係	白澤 遼

4 会次第

(1) 開会

(2) 市長あいさつ 別紙のとおり

(3) 協議

ア 2023 燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会 南九州市大会の報告

イ 南九州市の読書活動の推進状況について

ウ その他

(4) その他

(5) 閉会

5 会議録

東総務課長)

協議に入る前に、本日の会議の進め方等について、説明させていただきます。

まず、関係者及び担当課から資料に基づき、協議内容に関する現在の状況について説明をします。

次に、説明に対しまして質疑等を受け、関係者等から回答を行います。

最後に、各委員へ意見を求めますので、皆様方の知り得る範囲で結構ですので、御意見や情報等をお聞かせ頂ければと思います。市教育委員会と市との有意義な情報交換を行うことができればと思っております。

それでは、南九州市総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定によりまして、市長が議長となることになっておりますので、市長の方で協議進行をよろしくお願いします。

塗木市長)

はい、それでは私の方で協議を進めさせていただきます。

それでは協議に入ります前に、南九州市総合教育会議設置要綱第6条第3項によりまして、本日の議事録の署名人に、末原貴子教育委員を指名します。

それでは協議事項の1番目2023燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会南九州市大会の報告についてです。

保健体育課、説明をお願いします。

轟木保健体育課長)

1 国体の概要について

かごしま国体がソフトボール3種目、それぞれデモンストレーションスポーツとして2種目、障害者スポーツ大会として、2種目を開催

(1) 実行委員会の取組

平成28年6月に第75回国民体育大会南九州市準備委員会を設立し、平成29年7月に実行委員会に開設

(2) リハーサル大会について

令和元年に、指宿市と南九州市で第71回全日本総合女子ソフトボール選手権大会を開催し、それぞれ令和4年には南九州市平和公園で、同じく全日本総合女子ソフトボール選手権大会をリハーサル大会として開催。大会を通して、国体開催を想定した競技の運営、競技会係運営施策等、緊張感を持って確認しあうことで、本番に向けて課題等を確認することができた。市民の皆様を開催協議を照会する絶好の機会となった。

- (3) 手作り応援のぼり旗制作、花いっぱい運動、広報啓発活動、講演会・クリーンアップ運動、PR活動、歓迎装飾及び炬火イベントについて

別紙国体報告資料P3～P13参照

- (4) 国体総合開会式

鹿児島市の白波スタジアムで開催。開会式・閉会式には、市長、副市長、教育長、議長が参加した。

- (5) ソフトボール（成年男子）、ソフトボール（少年男子）、ソフトボール（少年女子）の様子について

別紙国体報告資料P17～P22参照

- (6) デモンストレーションスポーツディスクゴルフについて

全部で160名の参加があった。

- (7) デモンストレーションスポーツドライビングコンテスト（ゴルフ）について

「三豊ゴルフクラブ」にて開催された。選手、役員、観覧者合わせて230名の参加があった。

- (8) 競技役員・競技補助員について

競技補助員は県内の高校生延べ212名に競技の運営補助をしてもらった。

- (9) 競技会係員・ボランティアについて

競技会係員は市の職員で対応し、国体が611名、デモンストレーションが150名、障害者スポーツが105名で対応。ボランティアの方は、国体が98名、デモンストレーションが63名、障害者スポーツが135名協力してくださった。

- (10) 競技会場装飾、学校応援

学校応援（国体資料P55）校長会や教頭会で説明し、アンケートではほとんどの学校で応援観戦をしたいとのことだった。中学校全校生徒、小学生高学年が観戦。グッズにおいては全校児童生徒に配布した。

- (11) ソフトボール教室

ソフトボール教室初日悪天候のため知覧武道館で開催

- (12) 国体総合閉会式

別紙国体報告資料 P 31 参照

2 全国障害者スポーツ大会編

- (1) ソフトボール（知的障害者）別紙国体報告資料 P 34 参照
- (2) フットソフトボール（知的障害者）に秋篠宮佳子内親王殿下がお見えになられた。
- (3) 大会総合閉会式の様子
別紙国体報告資料 P 37 参照

3 資料編の説明

- (1) 燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会南九州市実行委員会開催方針について（別紙国体報告資料 P 39 参照）
- (2) 開催経過概要及び燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会南九州市実行委員会会則について（別紙国体報告資料 P 43～44 参照）
- (3) 実行委員会組織図について
別紙国体報告資料 P 69 に名簿がある。50 名で組織している。
- (4) 運営費の推移，広報啓発物，広報 P R 活動実績，花いっぱい運動・クリーンアップ運動，手作り応援のぼり旗，ボランティア活動，協賛，ダンス普及及びおもてなし・無料ドリンク・売店について（別紙国体報告資料 P 45～57 参照）
- (5) 宿泊について
合同配宿システムにて運営及び委託し，本市負担が 80 万円負担した。県内 7000 万かかっており半分を県が負担し，各市町村が半分負担する仕組みで，各市町村で按分した額を負担した。
- (6) 医事・救護について
1 人靱帯肉離れがあったが，その他は大きなけがもなく終わることができた。
- (7) 輸送・交通及び競技補助員・協議会補助員について（別紙国体報告資料 P 60, 61）
- (8) 総合成績，競技日程及び会場，来場者数並びに競技結果について（別紙国体報告資料 P 62～67）

4 最後に

令和元年にリハーサル大会をしたが，令和 2 年に新型コロナウイルス感染症の影響により延期になるかどうかかわからない日々が数か月続き，延期になったことで，このような状態で国体が開催できるのか，やっていいのか考え悩む毎日が続きました。その 1 年後，令和 3 年に正式な国体の会期が 2023 年 10 月と決まりました。しかし，新型コロナウイルス感染症の影響がある中，延期の状態で会議等も開けず，積極的な取組や十分な活動ができない

まま月日が流れていきました。しかしながら、開催が決まった以上準備を進める必要がありましたので、令和4年に入ってから国体を盛り上げるため、このような状況の中でも市民の皆様が不安にならないよう工夫しながら少しずつ活動を行って参りました。そのような中、市内児童生徒には令和3年度から実施しております、花いっぱい活動、応援旗作成、国体グッズの配布等を継続して行い、国体に関心を持ってもらうよう努めて参りました。このような子供たちに対しての活動ができましたのも、各学校の校長先生を始め先生方の御協力があったことでもあります。多額の経費をかけ、多くの方が一丸となったことで開催できた国体です。開催方針としてもありましたように、今後におきましても元気な町づくりに繋がるような様々な活動推進を行政が使命感を持って取り組む必要があると思っております。以上でかごしま国体・かごしま大会の報告を終わります。

塗木市長)

はい、ただいま保健体育課の方から国体についての説明がございました。最初予定をしていた令和2年の大会が中止となつて、大変長くりハーサル大会も2階行い、長く関わっておりましたけれども、昨年無事に終えることができました。皆様の方から、今の報告について何か御質問御意見等ありましたら、出させていただきますと思います。はい、池島委員。36分27秒

池島委員)

ありがとうございます。コロナで延期で本当に大変だったかと思ひます。そして、当日も天候の心配があり、本当にやきもきされた国体だったかと思ひます。児童生徒ののぼり旗作成や応援とか市民の方々による花プランター等本当に多くの方々の記憶に残る大会だったのではないかと思ひます。2点質問させていただきます。1点目は、国体による経済効果が何パーセントだったのかかわれば教えてください。2点目は、生涯スポーツの推進について具体的な施策について教えてください。

轟木保健体育課長)

経済効果については具体的な試算はしておりませんが、会場の施設整備、各大会の宿泊による経済効果、国体グッズや競技用品等の調達 は市内の業者にお願いしました。経済効果についての具体的な数字は、計算しようと考えています。

生涯スポーツについては、デモンストレーションで実施したディスクゴルフについては、誰でもどこでも気軽に取り組めるスポーツなので、市のスポーツ推進員の方にも学校等から要望があればすぐに行くようにし、普及するようにしております。引き続き生涯スポーツにつながるようなものを推進していきたいと考えております。

海江田委員)

轟木課長お疲れ様でした。自然災害等乗り越えて立派な大会が開催されました。ありがとうございました。こういった大会については、大会当日については2割、残りは準備8割だと考えています。準備をこれだけしていたからこそ成功して素晴らしい大会になったと思います。

国体ダンスがありましたが、非常に難しいと思いました。せっかくだったので、もっと簡単な動きにして、国体でやったダンスということで、ずっとやり続けられるような内容だったらよかったと思いました。

轟木保健体育課長)

国体ダンスは、かごしま国体としてのダンスとして、県が専門のダンスの先生にお願いして作ったものになります。

簡易なバージョンのものもあります。座ったまま、上半身だけでするダンスもあり、3パターンほどございます。自分たちも覚えられなく難しいダンスでした。松ヶ浦小学校からダンスを覚えたいという要望や運動会で使用したいという学校等もありました。ダンスの内容が難しいということで、なかなか多くの学校が取り入れるのが難しいダンスだったのが残念だと思います。

大迫委員)

令和2年の当初予定のときには、かなり前からの準備がありました。しかし、令和5年に決まった時は、非常に短い時間で充実した大会が開催できたと思います。本当にお疲れ様でした。前回大会のとき、私は小学生でしたが、そのときのイメージはとても残っています。学校全体で観戦しに行ったりして、思い出深いものになりました。今回の大会では、中学生と小学生は高学年だけであったと聞いています。小学生に対してアンケートを取っているのでしょうか。もし取っていたら内容について教えてください。

轟木保健体育課長)

子どもたちへのアンケートは取っておりません。学校の校長先生方から子供たちが関心をもって一生懸命応援旗等を作成し、作成する中で方言を先生に聞いたり調べたりしながら作っていたという先生方からの声がありました。子供たちへも感想を聞いてみてもいいと思いました。

大迫委員)

大人よりも子供の時の方が感動するような気がします。今回小学生が5・6年生しか行けなかったということが3・4年生も行きたかったのではないのかなと思います。

末原委員)

ありがとうございました。最初の開催年は、オリンピックの開催年と重なったこともあったので、楽しみにしていましたが、1度中止になった気持ちを再度盛り上げるために、コロナの中市民を刺激しないようにという配慮もあったという

ことで、盛り上げていくために大変な苦労があったのだと思いました。開催が延期となったということで、大変な中開催に取り組んでいただき、大変素晴らしい大会となり、本当にありがとうございました。

先程経済効果というお話も出まして、宿泊業にも関わりましたが、宿泊については、おかげ様でたくさんの方に泊まっていただき、大変経済効果があったと感じています。

しかし、実際の数字の中には、地域で盛り上げていこうというボランティアの部分もたくさんあることを知っていただきたいと思います。

子どもたちとも応援に行きましたが、ボランティアの方々が誘導から何から設備も素晴らしいもので、このようなレベルの高い大会を子供たちが目の当たりにすることができるというのは大きなことだと感じました。ダンスも婦人部で少し参加しましたが、本当に難しかったです、いい機会となって色々な方と関われたのがよかったと思います。

1点気になったのが、南九州市の選手で国体に出る選手の情報があったのでしょうか。その情報があれば、観に行ったかもしれないと家族と話したところでした。その情報は、収集して発信されていたのでしょうか。

轟木保健体育課長)

南九州市の方で、他の競技の国体に出場する選手の情報については、何か月も前から県へ選手名簿等の情報配信のお願いをしてきていましたが、県の方も大会が近づかないとわからないということで、大会直前で県から情報がもらえたので、なかなか発信という部分ができなかったと思います。

末原委員)

大会運営も大変な中、情報収集にも努めてくださっていたということで感謝します。ありがとうございます。

塗木市長)

ありがとうございました。色々なスポーツの大会がありますので、国体での経験を生かして様々な大会を開催していただきたいと思います。国体については、これで終わります。

次に、協議事項の2番目、南九州市の読書活動の推進状況について、担当課から説明をお願いいたします。

星原学務係長)

本日は、学校における読書活動の推進状況について説明する機会を頂きまして、誠にそれでは座って失礼いたします。これから、本市小・中学校における読書活動の推進状況について御説明いたします。

初めに、本市児童生徒の読書量を県、全国と比較して御覧いただきます。全国調査によると、1か月の読書量は、小学生の平均が12.6冊、中学校の平均は、5.5

冊となっています。そこに、県教育委員会が隔年で実施している読書に関する調査の結果を重ねていきます。

県では、読書の秋に当たる10月に、全国、全公立小中学校を対象に1か月間の読書量調査を実施しています。御覧のとおり、本県は全ての学年において全国平均を上回っています。そこに、本市の児童生徒の調査結果を黄色で重ねます。残念ながら、中学校3年生だけは、全国の平均を下回りましたが、その他の学年においては、全て県平均を上回り、全国に至っては2倍近くの読書量が多いことが伺えます。

次に、本市が独自に行っている読書量調査の結果をもとに、過去6年間の学校図書館からの貸出し冊数の推移を御覧ください。小学生は全国的な読書離れの傾向と逆行するかのように、年々読書量が増えていることがわかります。特に令和3年度は、141.7冊と大幅に伸びておりますが、これは市校長会が編集、市教育委員会が作成配布した「夢広がる」校長先生がお勧めする、この1冊の効果によるところが大きいと推察されます。

次に、中学生の推移を御覧ください。中学生は、年間1冊ペースで読書量が減りつつありましたが、令和3年度は「夢広がる」の効果で一時盛り返しました。しかし、令和4年度には想定していたケースよりも落ち込み、今後も注視していかなければなりません。

次のグラフは不読者数の比較です。不読者数とは、1か月で1冊も読書をしなかったものの数です。全国平均は小学生7パーセント、中学生は13.1パーセントです。

県平均は緑、本市は黄色ですが、小学生の場合、ほとんど不読者はおりません。一方で、中学生の結果は、県とほぼ同数となっています。

不読者については、不登校者数との関連が強いのですが、中学2年生の少なさを見る限り、工夫次第では不読者数を減らすことができると考えます。

次は、読書推進のための取組状況です。県内ほとんどの学校へ読書推進のための取組を行っています。

緑は、県、本市は黄色です。市内小学校16校、中学校3校、計19校の全てが学校独自の楽しい読書推進の取組を行っております。

それでは、ここからは、その取組の具体を御覧いただきます。

まず、全校一斉の読書活動です。この写真は、中福良小学校の様子です。家庭教育学級生のお母さんが1・2年生を対象に読み聞かせを行っています。

こちらは宮脇小学校です。

ほとんどの学校で、6月と10月に読書月間などを設定し、教師による読み聞かせを行っています。学校によっては担任を交代したり、校長先生も加わるなどして、興味関心を高める工夫をしています。

こちらは清水小学校です。毎月23日を親子読書の日と設定し、家庭と学校が協力して、読書推進の取組を行っています。

こちらは九玉小学校です。親子読書を推進するために設けられた掲示板です。次に、読書の幅を広げる活動を御覧ください。

こちらは宮脇小学校です。このように、市内全ての学校で先ほど紹介しました「夢広がる」コーナーを設けています。

霜出小学校では、「夢広がる」で紹介されている本を1か所にまとめて、子供が選びやすく工夫しています。

中福良小学校では、6月の梅雨時期に合った本のコーナーを設けました。

高田小学校では、SDGsの理解を深めるための図書コーナーを設けています。

知覧小学校では、子供が本を借りたくなるよう、図書室に続く道に沿って楽しい設営を工夫しています。

松山小学校では、階段に図書館案内図を掲示したり、人気絵本からクイズを出したりして、図書室に行きたくなる仕掛けを工夫しています。

川辺小学校の様子です。「夢広がる」コーナーだけでなく、図書委員会の児童がお勧めする本のコーナーを特設して意欲を高めています。

川辺中学校では新刊図書コーナーを図書室の入り口に設置して図書室にいきなっています。

宮脇小学校では、学年別や、テーマ別の図書コーナー、立ち読みコーナー等、子供の興味関心を高める工夫をたくさん取り入れています。

次に、読書活動を生かした表現活動です。

写真は、知覧小学校のビブリオバトルの様子です。ビブリオバトルとは、お薦めの本をプレゼンして、どの本が読みたくなったかを投票で決めてもらう書評合戦です。

粟ヶ窪小学校では、地域の高齢者を招待してビブリオバトルを実施しました。ここでの交流は、後日南日本新聞のひろば欄と若い目にも掲載され、大きな反響を呼びました。

別府小学校では、図書委員会の児童が練習して読み聞かせを行いました。

青戸小学校では、大型紙芝居に挑戦しました。

知覧小学校では、ペープサートと呼ばれる手作りの紙人形劇に取り組みました。

最後に、楽しさや有用性が得られる読書活動の様子を御覧ください。

高田小学校では、本を借りたらガチャガチャができます。当たりは、プラス1冊貸出し券です。

大丸小学校の紅白読書合戦は、紅白どちらの方が面白いかを投票する企画で

す。実験コーナーは、野菜は生きているという絵本の内容を実際に実験で確かめている様子です。

読書郵便は、どの学校でも取り組む活動ですが、松ヶ浦小学校では、子供郵便局員がはがきを届けています。また、秋には先生がお勧めする本をかわいらしく掲示しています。

中福良小では、しおりを紙から手作りすることで、読書がもっと好きになるよう工夫しています。

霜出小学校では読み聞かせと音楽コンサートを組み合わせました。

読書の秋と芸術の秋を組み合わせた楽しい企画です。

知覧中学校では、図書委員の生徒が本の内容からクイズを出したり、お薦めの本をクリスマス風にラッピングしたりして楽しく紹介していました。

成果と課題です。まず、成果として3点。

本市小中学生は、県、全国と比較して読書量が多く、確かな読書習慣が身についていると言えます。

二つ目に、読書指導に関する市研究指定校の先進的な取組が市内全校に波及し、読書のまち南九州市の伝統がしっかりと根づいていると感じています。

3点目です。学校司書の情熱と豊かな経験が学校における読書活動の軸となり、本市の児童生徒は、全国的な活字離れと逆行して、読書が好きで、生涯にわたって、より多くの本に親しもうとする読書意欲が高いと言えます。

次に、課題は2点です。

全国県と比較して、中学3年生の読書量が少ない要因の一つに、不読率の高さがあります。悩みを抱える生徒や不登校傾向の生徒にこそ心を豊かにする読書習慣を身につけさせていきたいと思えます。中学生の読書量低下のペースは想定よりも早く、少なくとも週に1冊、1回1冊だけでも、学校図書館から本を借りて読む習慣を身につけさせるよう、学校が工夫していかなければなりません。

終わりに、本市の読書推進状況は、県下でも誇れる高い水準にあると感じておりますが、さらに読書のまち南九州市が市全体に定着するよう、今後も学校と協力しながら質の高い読書活動を推進して参ります。以上で終わります。

塗木市長)

はい、ありがとうございました。次に、社会教育課から説明をお願いします。
加治佐図書館長)

南九州市立図書館は、2つの館と1つの図書室が一緒になって南九州市立図書館ということになりました。それぞれの館で特色を持って運営しています。顕娃図書館は、主に南九州市の産業である、農業の資料を中心にそろえております。知覧図書館は、郷土資料を中心にそろえています。川辺図書室は、児童書をメインにそろえています。そして、市民に広く利用されるよう、運営をはかっており

ます。

まず、南九州市立図書館の歴史です。一言で言いますと、鹿児島県下で1番最初に図書館ができたところです。知覧縦覧所といって、新聞を閲覧できるところが、1881年明治14年にできています。この石碑は、図書館の隣にある駐車場にあり、ここに知覧縦覧所があったという石碑ができています。2年後の明治16年には、根占の方にも図書館できています。顥娃図書館を大正13年、それから川辺図書室は大正12年にできており、昔から南九州市は、読書に関する関心が非常に高いのだと思います。

また、これだけの大きな図書館を3つも持つ市というのは、他にはなかなかありません。ですから、先ほど学校教育課からもありましたけれども、特色の一つとして、教育・文化のまちということを提唱してもいいのではと思います。

次に、南九州市の概要について述べさせていただきます。

まず、平成30年4月から、NPO法人夢を育む読書の会が指定管理として、運営を行っております。知覧図書館を中心として、知覧が7名、顥娃が5名、川辺5名で運営を行っているところです。

館内サービスとして、主なことを紹介します。

まず、お話し会の実施です。毎週土曜日午後3時から各館で行っています。お話し会の部屋に、子供、お父さん、お母さんたちに集まってもらって、そこで司書が読み聞かせをするという会です。そのほかに、お話し会スペシャルを春、秋に2回行い、七夕お話し会、クリスマスお話し会といったようなお話し会を開催しています。

そのほかに、ここで開くおはなし会だけでなく、学校や施設、幼稚園で開くおはなし会にも出向いています。

次に、大きな役割を果たしているのは、移動図書館車です。

夢郷号とさくら号と2台あるが、現在は、さくら号の1台体制で南九州市内の学校等の37か所を回っています。移動図書館車は、なかなか図書館に来ることができない市民の皆様、特に子供たちに平等に読書の機会を与えることができるサービスで、1台の図書館車で一つの図書館並みの貸出しがあり、南九州市の読書活動の増進に大いに役立っていると思います。

夢郷号は、引退し、南アフリカの方に譲渡されました。あちらの方で第2の人生を送っているということを聞いています。

郷土講座も開催しております。各講座年2回ほど開催しております。薩南文化講演会は知覧です。郷土史の薩南文化を以前から発行しておりますけれども、これを受けてのものです。次に川辺郷土史は、身近にある川辺の関心を高めております。それから、顥娃図書館の文化講演会も、地域の関心を高め、そして開催しています。

どの講座についても、新たな講座の新たな郷土の知識を知ることができたと受講者からは非常に好評を頂いており、毎回すぐに埋まってしまうものとなっています。

そのほか、読書の集いを年1回開催しています。これは、年に1回児童書作家さん又は絵本作家さんに1人来ていただいて、無料の講演会をしています。

令和5年度は知覧図書館で児童書作家さんの杉山亮さんをお招きしまして、開催しました。参加者が50名ほどあり、ワークショップ、物語ライブ等があり、非常に子供から大人まで楽しむことができました。

いろんな研修会の受入れも行っています。ジュニア図書館員、これは小学生が図書館の仕事を体験し、中学生の職場体験、高校生の職場、それと教職員の先生方の研修として、初任者研修、それから経験者研修を受け入れています。

次に子育ての支援の視点から、いいますと、3か月健診のときにブックスタートを行っています。それから、就学時健診のときには、セカンドブックを行っています。それぞれの子供たちに絵本をプレゼントします。幼い頃から絵本に触れ合う機会をつくって、絵本を通して家族との絆を深めるという目的でしています。ブックスタートでもらった本は、上の子供が下の妹や弟に読んで聞かせてあげるとかですね、その時に本を入れるための袋を配っていますが、その袋で本を借りるということもしています。

次に利用者数の推移について説明します。平成29年から少しずつ減少していますが、図書館車が2台から1台に減少したことによります。平成30年から指定管理を受けまして、令和元年には増加しましたが、令和2年から新型コロナウイルス感染の拡大により更に減少し、現在まで横ばいの数字となっています。

次に、貸出冊数の推移です。利用者数と同じように平成29年に下がっています。図書館車の影響は大きいです。更に新型コロナウイルス感染拡大により減少し、その後は大体横ばいになってきています。

次に、利用状況の推移ということでご覧ください。このデータは、県の図書館協議会というところが出すもので、毎年出ています。令和4年の南九州市民の一人当たりの貸出冊数は、7.18冊、鹿児島県の一人当たりの貸出冊数が3.23冊なので、南九州市の貸出冊数は鹿児島県の貸出冊数の2倍となっています。

また、「BM」というのは「ブックモバイル（移動図書館）」の貸出冊数は、31冊あったのが2台体制から1台になったことにより17冊まで減りました。

また、読書量については、南九州市は県下でも4番目となっていて、更に見て「市」の中では出水市が10番目にありますが、「市」の中では1番南九州市が多いということです。このことから、南九州市民は、県下で1番本を読む市民と言えます。

次に、南九州市は2つの会議があり、1つは図書館協議会といって、有識者の

皆さんに諮問をする会議です。もう1つは、読書活動推進会議です。これは、小中学校の校長先生方、読書活動推進の担当、学校司書の先生方が集まって読書活動推進について研修を深めていくものです。この会議は、市内の小中学校の図書館と南九州市が読書活動推進を図っているという学校司書の資質の向上のために先進地視察研修やステップアップケースという、子供たちの読書活動推進に対する興味を高めるための、読書活動などを行っています。

最後にお手元の資料の紹介をします。1つ目は、年間の活動実績、お話し会（毎週土曜日）等についてです。2つ目は、「夢ひろがる」についてです。校長先生方が始めた「夢ひろがる」を「続夢ひろがる」を図書館から選んだものを掲載し、作成しました。3つ目は、読書の記録です。これは、中身は貯金通帳のようになっていて、本の名前と金額が出てきて毎月の集計があります。本来であれば、これだけのお金が必要ですよということが目に見えてわかるようになっています。是非無料ですので、図書館を活用していただきたいと思います。

以上で図書館からの説明を終わります。

川之上社会教育課長)

社会教育課としての読書推進活動について御説明いたします。

読書活動は、子供たちが言葉を学びながら、表現力や想像力を豊かなものにします。先ほど、ブックスタートやセカンドブックの取組につきましても紹介されましたけれども、幼児からの絵本の読み聞かせを行いまして、ゲームやインターネットから離れて好きな本を読む時間を意識的に作りまして、読書の楽しさを知る機会をつくることが大切と考えることから、この運動を推進しております。

また、「子供読書の日」と「子供と一緒に読書活動の日」につきましては、平成13年12月に、子供の読書活動の推進に関する法律が施行されまして、4月23日が「子供読書の日」と定められたことを受けまして、鹿児島県では、4月23日だけでなく、毎月23日は、子供が自ら本に親しみ、主体的に、読書を行うように、家庭や地域でも、大人と一緒に本を読んで読書活動を推進しようとするもので、「子供読書の日」「子供と一緒に読書活動の日」を毎月23日と定めていると。

次に、外郭団体との連携ということで記載しております。各指導連絡会やPTA活動等におきまして、ノーマディアに取り組むことや、1日20分間の読書活動についても、推進について周知をしています。

市校長研修会、教頭研修会にて周知をしています。各学校におきましても、家庭教育学級の開催をお願いしておりますけれども、その際の講座の一つとして、また教育委員会で作成しております児童生徒にお勧めの本も紹介する「夢広がる」「続夢広がる」等の活用をお願いして、読書の推進に努めています。

社会教育課からは以上です。

塗木市長)

ただいま担当から説明がありました。皆さんの方から読書活動について御意見、御質問等はございませんでしょうか。

池島委員)

各小学校の司書の先生方が大変工夫がよく感じられ、学校訪問でもよく感じられており、ありがたいと感じています。また、「夢ひろがる」の発行も子供たちに読む幅が広がってよかったと感じています。

不読者について、中学3年生の時に受験前で時間も足りなるかと思うが、不読者の子供たちにアンケートを取ってみると、また何か見えてくるのでは、違ってくるのではないかなと思います。

読書郵便（松ヶ浦小学校の取組）とは、どのようなものか教えてください。

星原学務係長)

まず、不読者のアンケートの実施等を行ったことがありませんので、ぜひ取り入れていきたいと思います。ちなみに、中学2年生だけが極端に不読者が少なかったのですが、学校に聞いてみると、担任の先生が読書月間だから借りに行っておいでというふうに勧めてくれたそうです。ですので、中学生くらいになると、自分から行く子は少なくなるので、担任の先生や学校の職員が声掛けをしていくことが大事だと思います。

読書郵便は、はがきに友達の名前と学級を書き、裏面に自分のおすすめしたい本の紹介を書いて図書室のポストに入れると、翌日又はその日のうちに紹介したい友達その子供に届く。本を通して心の交流であったり、友達との絆を深めたりという非常に有効な読書紹介のツールとお考えいただければと思います。

塗木市長)

他にはありませんか。

末原委員)

ブックスタートもセカンドもそれぞれいただいて、読書通帳も子供たち2人とも2冊目に入りました。本当に図書館に行くのも楽しみで、おかげさまで下のところが今度1年生ですが、ひらがなだけはすらすら読めるようになりました。図書館に行くのが楽しみで、下の子は本がスラスラ読めるようになった。本当に小さいときから、どれだけ親しめるかだと思います。

私の実感としては、小学校で読み聞かせの下に専門部会に読書部というのがあり、そこで読み聞かせに行きますが、すごく熱心によく聴いてくれます。すごく有名な本を持って行って、読んだことのある人と聞くと、ほとんど手を挙げる中で、1人2人手を挙げない子もいるので、もう読まないか本当に読まないんだろなあと、何かきっかけになればいいなと思いながら、読んでいるところです。

市立図書館では、移動図書館、小学校でいうと物語給食という取組を聞きます

けれども、学校だけでなく様々な部署と連携し、もっと読書活動は広がっていくのかなと感じました。

かなり前の定例教育委員会で、ちょっと話に挙げましたが、予算的な問題があるとは思いますが、市立図書館のホームページが更に使いやすくなったらいいなと感じます。もし可能であればアプリがあれば、もっと借りやすいと感じます。日数を超えてしまって返しに行ったりしますが、アプリがあれば、返却日が分かったりとか、市報とかにも図書の本をおすすめするページがありますが、そこにもQRコードで簡単に借りたり、好きになった本を買ったりすることができると便利だなと思います。

また、本当に小中学校工夫された図書館の運営をされていて、市の研究指定校で各小学校が実施されていますが、よくありがちですが、指定校になった年から3年はどの研究校も熱心に取組を続けますが、年数が経つと過去のものみたいになっていってしまうので、今後ともずっと続けていただければと思います。

小中学校の先生方は、本当に忙しいと思いますので、クラスの担任が抱え込まずに、司書の先生方に投げられるような協力体制をつくっていき、市立図書館にも協力をもらいながら先生方の負担にならない中で続けていける取組を継続していただけたらと感じます。

クラスの先生が負担にならないように続けていける取組をしてほしい。

塗木市長)

他にはありますか。大迫委員。

大迫委員)

読まない子と読む子の差があって、不読率が中学生で上がるのは分かりますが、かなり読んでいた人たちは受験等でたまたま読む時間がなくなって減ったのか、あるいは不登校になって学校からは借りていないけれども、市の図書館から借りているのか、トータル的な数字とかいうのがもし分析されているのであれば教えてほしいのが1点と、図書館にお聞きしたいのは、まだ令和5年度の数が出てないと思いますが、コロナが5類に変わって、最初は30万冊ぐらい借りていましたが、そこに近づいて増えてきているのか。それとも、先ほどの説明では、横ばいということでしたが、令和5年度も全然変わらないのかどうか。その利用者数も含めて、もし分かれば教えていただきたいと思います。

星原学務係長)

不読率については、先程はパーセントで見ていただきましたが、実際の児童生徒の数で言いますと、小学生全体で1人2人という状況です。学校に全く通っておらず、借りる機会がない子であっても、調査期間が10月の1か月間だけに限定されているものですから、年間を通してみれば、1冊も借りないということはないです。問題なのは、中学校で、中学生が急速なスピードで不読となっております。

す。はっきりとした調査は取っておりませんが、中学生になると、タブレットやスマートフォン等の別のメディアに手を出してしまうので、本を読むということに慣れず少し苦痛を伴う部分があり読書活動から離れていくのだらうと思います。南九州市の方は、子供、保護者が読書活動をしている方が大変多いため、少し工夫で読書に戻っていくのではないかと思います。特に、不読者を減らすためには、不登校の子たちの状況をしっかり把握して、声をかけていくといったところをもう1度学校に指導していくことが必要だと感じます。

有馬教育長)

不読者を増やさない、不読者を少しでも減らすということは、教育面において非常に大事なことでと考えています。読書習慣を小さい頃に身に付けさせることが大切で、人生の途中で忙しさにかまけて読書から離れても、やがては時間を見つけて人生の中で本人また向かっていくということも昔から言われております。そういう意味では、小中学校時代の読書習慣というのは非常に大事だと思います。

私、この子供たちの未来への贈物と、いうふうに思っております。

ただ、10年前20年前からしますと、特に高校生、読書離れが進んで、極端に読む生徒は読む、読まない生徒が増え、ということが言われております。

手持ちの資料はありませんけどそれが言われております。全く読まない、という高校生が増えてきていて、それがやがてどんな社会現象になるのかということに警鐘を鳴らしている方もおられます。ですので、高校へはなかなか我々は問題提起をすることは、できないのですが、本市においては、読書習慣を小さい頃に家庭と一緒に、市立図書館と一緒に、充実させていくことが大事だと思っておりますので、今後ともお力添えをどうぞよろしくお願いしたいと思います。

学校の先生方ですね。多忙のところは確かにございます。ただ、子供たちが笑顔を持って、あるいは感動して、そして自分もそれに向かって仕事をするのことに對して何ら苦痛を感じていないです。楽しみを覚えながらそういうことをやっていっているというふうに聞いております。教師の本来の仕事の一部じゃないのかなと思います。今後も様々な指導要領が入ってきますから大変なのは確かですけども、地道な活動の読書活動には、じっくりと取り組んで参りたいと思っています。

海江田委員)

図書館の利用ということで、私たちは読書と言うと、本を手にとって文字に面するということを想像するのですが、現在、様々なところで読書という形が変わってきているように思います。

例えば、朗読してくれるような、メディアがありますが、著名人が書いた本には朗読してくれるCDが付いていたり、これは読書と考えていいのかなと思いま

す。元々は、目が不自由な方のためということだったのではと思います。いわゆる自分で読めるのに、聞くことからの読書というのが多くなってきたというのは、楽だということからだと思います。これを読書と言っていいのかということをお伺いしたいと思います。同時に、今加治佐館長からいただいたものの中で、南九州市の上になぜ徳之島町があるのだろうと星原先生にお伺いしたいと思います。

加治佐図書館長)

今おっしゃられた電子図書ですね。最近テレビを観ていますと、様々なことをしながら聴いているというのがあって、個人の意見ですが、これは読書と言わないのではないかな、ラジオが付いているのと同じだと思います。ただ、そういったものを図書館でも入れてはどうかとして、先進的に導入している図書館がいくつかあります。ところが、聞いてみると非常に冊数が少なく、契約期間で金額が定まっているため、1冊の値段が何千円にもなるということでした。読書は文字を見て頭に入れていくことが読書ではないかなと思っています。

ただ、そのような現状で1つだけ導入したのが、概要の2ページです。タブレットによるdマガジン閲覧サービスを導入しました。毎月一定の金額でバックナンバーも含めて約500冊の雑誌を読むことができます。利用者の皆さんにどの雑誌を残してほしいかというアンケートを取りまして、その中で意見の多かったものについては残していますが、それ以外についてはタブレットで対応しているところです。

星原学務係長)

徳之島町の指導主事をしていた経緯があります。私が勤めていた教育委員会に市の図書館がございまして、私の印象としては、にぎわっていたのかと言われたらそうでもないような気がしました。ただ、離島ですので、娯楽が少なく、読書習慣がきっちり身につけているから毎日に通われる方が、南九州市のように人口が多くないので、そういう方々が頻繁に本を借りているので分母で割ると、自ずと小さな市町村が上位に来るのかと思います。

むしろ、大きな規模の南九州市が上位に入っていることの方が驚きだと思いますので、いかに南九州市の読書推進が、大いに進んでいるかということを実感しています。

塗木市長)

ただいま皆さま方から読書活動の推進について様々な御意見をいただきました。要望については、図書館でも教育委員会でも生かしていただきたいと思います。

それでは、協議事項の3番目その他について皆さまから何かございませんでしょうか。

この会は、いじめや不登校についても協議をする場でもありますので、触れた

いと思います。学校教育課からお願いします。

竹下学校教育課長)

令和6年1月末時点での令和5年度の不登校数ですが、小学校が13名、中学校が22名、合計35名となっています。この数字は、昨年度と比較しますと、まだ2か月ありますが、小学生で6名、中学生で8名、合計14名少なくなっておりまして、この原因が今年取組ました早期発見、早期対応を行い、7日欠席した時点で、不登校の要因や対応を記録する個別支援計画は、これまで学校で独自に取り組んでおりまして、何日欠席したから個別支援計画を始めるということを学校に任せていましたが、今回これを一斉に7日に揃え、更にそれを教育委員会に提出して、教育委員会のアドバイスをもらい、そして学校と一体となって子供たちを支援していくという取組を始めました。これが、大きな効果として表れているのではないかと思います。引き続き、この取組を続けていきたいと思っています。

それから、いじめですが、令和5年度1月末時点で、小学校64、中学校31、合計97件の報告をいただいています。昨年度と比べて、マイナス29件となっております。1件でも多く発見して、そして早く、特に本市の場合は、一晩置かない、その日のうちに、校長自ら、陣頭指揮をとって、保護者にまできちんと説明して、取組を行っているところです。

本年度から、1人1台タブレットも使っております。毎月、相談ができるような体制を取っております。

相談が増えるのかなと思ったが、相談件数は少ないので、学校に聞いてみますと、子供にとってはいつでも相談できるという安心感が逆にあります、という小学校の意見があり、中学校では増えましたということでした。

相談件数が増え、様々な効果が見えていますので、来年度の取組の参考にしていきたいと考えております。以上です。

市長)

このことについて皆さまからお聞きしたいことはないでしょうか。よろしかったでしょうか。ないようですので、本日の協議を終了したいと思います。ありがとうございました。

東総務課長)

ありがとうございました。それでは、続きまして会次第4その他でございます。何か委員のみなさまから何かなかったでしょうか。よろしかったでしょうか。それでは、事務局から次の日程等について御説明させていただきます。

有菌行政係長)

今回は、令和6年9月頃を予定しております。詳細につきましては、追ってお知らせを行いたいと思います。

ただし、次回までの間に緊急的に行う場合につきましては、相談をさせていただ

だきます。

東総務課長)

はい、それでは以上でございます。それでは、以上を持ちまして、令和5年度第2回南九州市総合教育会議を終了いたします。みなさま、ありがとうございました。

議事録署名人 末原 貴子

議事録署名人 塗木 弘幸

